815.7
M893pt2
m

國立國會圖書館藏書

國立國會圖書館
24. 9. 5

25366

帝國圖書館藏

詞瓊綸三〻巻

○その結びハ。紐綾の右の結ぶ結ぶ〻の結〻そ。一の表に出せる三物儀式結め〻。俱〻三物のうち。□□□□ぞや伺〻そ結結びを紐綾中の切花の切乃定まり結ぶ〻〻て。そ〻ハ左〻〻みぢり〻結び〻〻〻れを。そ〻と後の結び□□□

を。三物の中の切花の辞を除き〻〻紙を。ゆ〻〻も右の切結むすび乃さぐまれる辞のごとなり〻び。てふをは〻そも伺〻て〻も磨く〻〻し御〻〻〻いまちと結ゆ〻〻右の切に定むるて〻は。〻結三物の辞て結ふ〻〻。□□□□□そのや伺〻そに対〻て。ゆ〻〻ぐまとう分がゆ名〻〻。

○初なぬ言てなげた

古十九　まを称をかくと赤よりて学はあるしかも釜　た　うの枯花釜

拾一　わくたゐ枯うくと立つてつかしこうまくくと畑　た　うづひきめ

新六　おの一うくうきるゆ　た　をのあをを本紫吹まく　合枯ゆふ

に又　さびくさ　た　みゑの秋乃紅ぐりり夢にちくく　枯枯下

後十七　よ代をむく苦枯てるも　た　うで一主　うきひバうと　いざふうう稲ん

新十一　ヨが恋　た　枯の下紫ふりる時西　ゆるとし社の多あらで多や

月十七　時ちくぬ山　た　ふど枯ゆ　いつてかのこまでこに雪のゆくうん

○いひりをうて枯ぶた

後拾十九　かるうち代まちころよかくるぐくよもしで多て　た　やまくる星

千古　行ふと　た　いるさ細に乃みをつくくー　係きちくくもなきよりりる

新十七　学神代をむきふうてた古くくどもるくきこ　た　あれちくの星

○た　を主ぬる橋ムさく

古二　ゆるさくなりにくるる枯よもいろ　た　ろくび花　た　こに花

月七　いり　た　と　た　ちき　た　ヨとくめどく秋の雨ぞ相思ちりりるる

これくハしく伝くまるまるる　又一つの橋あるし

古四　星　た　ひまて人　た　ふりゆくく寒ものや　春もまが紅と秋のゆくくる

月又　秋　た　きぬりみぐら　た　寒ふるの　ちきる　きこふてくるゆ人　た　ゑし

後五　多の色くくる　た　つまるくく秋風　た　ゆふより雲ふ　寒うるくせ

新又　色くく　た　こぎ風ふ本紫　た　ちのたくくよるく　寒　た　新ようるし

右のたぐひ一つは板ゐり
又ことてかまとをお對へていまを

左一　みらり［を］松の葉ぐふきえゐくゆきやと［を］のべ乃ようみつくるを

同　人［を］らさきらもちらぐふるまを［を］義をもり枝ふくるひらる

同三　ちゐ［を］して後［を］又てぬ部一　ゐヒゲころとでのゑづをりくるん

拾一　いうぐせん命［を］かぎりまを池をちひ［を］ヨすまぶ・へ［を］法をなり

右の月こやまよ八のゐし。對八してのゐりとハ二つのをりまさしノ、お對てり。人を
いさのゐハ上の［を］ハ花と對ひ下の［を］ハ對ひどいぐせんのゐハ上の［を］ハ下句と
對ひ下の二つの［を］ハ前ふいぐるこ一枝の［を］なり。
又［を］二つ［を］二つあるゐ

左一　年ぬまこをよりひ［を］おいぬ春り［を］あまで後をこをれバ花ひも

○一つの［を］

左十六　かぎりく に、春をうまれぬ花ゐるこば山のうまくを行まて［を］見よ

後四　るをだくさハ天の川　春をセりり後のみそりをくそぎよ［を］せよ

拾八　かりてくば春をゐる山乃まをだくふらゐるちくろを春り示［を］せん

後百下　たりひるハ大そを之やりえ風る秋くろ雲をりぶり示［を］して

千載集十七ろうを

○春くのゐこのを

○ちこを

後拾三　五月雨［を］みりのゐきれ口まこと書かりはを書ゑたりどをなりふ

同　ちくぶと［を］見てくり小篠つの葉ゐるくりたりは法のうくちのうくて

こゐうくゐ月雨ゐまくとつ雲とは法ゐりゐ法ゐ法ゐ

○ちこを

左十一　春日野は雪ゐ分て生ふる草はをくりゐ示しゐ［を］ちこを

同十七　さくの葉をしぬりつむ者のうまをまこと　ぐちゆく　あさうえを

同十八　みづきは　岩乃屋　くさに　姉と　あとの　ねをの　をはふり　そを

百三　やき津へ　ゆきしべ　ちるが　ある　石の　儀つ　平砂　ふりひ　そを

仏陸奥　茶屋　ハ　ある　れ　書　に　ある　ひと　ある　紀　美　橋　雅　の　ゆ　を　ひ

　　　

○をだ　こまハをゝこ　をそ　をそ　をや　を　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

のめく　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

○てを　こゝハたゞしくいふことゝてをだとお雙ぶ辞し　てをしてを
てゝ六の巻のはじめの詞
くさ〳〵いつる

万十五　秋ちかくなりてあわつるつゆ霜ぬまぬぬ　ぬ　ぬ　

同十二　おりひつぬきでや人のうしつらん　せだ　さあざらまし

又せだと為りしかハ上へ久りてましまし

古十四　うすき茅たるひうしまし　せだ　をあすきのいしかくうしたはしまし

後拾一　よの井戸のみなかうまし　山ばうし茅見るふどのこうなる　せだ

又ましまし　いをざうしまれはハる　こまハいしうしまるまし

古四　をうべしあれうしはべりやどう　せだ　りやうあざのみをやえるん

後九　うしかハ海よ係まちろつのみうり　せだ　なのふりハ茅を招えしもせん

拾二　さよ係く係さをざう　せだ　郎　么人ばてふこをきくべうりうを

○上よふを添てふせだうといつ信濃五の茅はふの紅りしせう

○ましかで　ふましハ下にふ又ましといふ例し

古十四　人をとびきえる　ましまし　をとびつくもあれぞとぶいえます

後二　山星をちりる　ましかで　さうしむありふさうをもまざうます

同十三　ひうはきの乃なかし　ましかで　ふ高のふきてわびきふをせます

拾十九　おやのたやしおりて　ましかで　うひてますく係ふはたしぬるべし

新十六　高のいのちきえる　ましかで　かくばりうふるを書城ふをます

又ましまし　ましまし

後十六　思ひ出うしうふを持茅をたきえます　ましまし　刃のうしまし　ましまし

新十三　生れゆきて為りしつげます　ましまし　を茅乃ありうたふきえる　ましまし

同十九　うれしさもこのをもいうふまとへます　ましまし　五人人りとをる　ましまし

又ましまし　ましまし　為りて上へハ加へびて下にをを抜くめしうる有

いとづゝみる月日をたゞ〳〵の事ぞとは思はねどおりゐ

こまを乗のゝぞく見ますめぐりまゝしいふこゝろをそのうれしう〳〵まゝしいふことをバ下にやくめそらひのこせる歌し次のうたも皆「月一」橋く

まゝうぐ

後拾一

花ゑんてぞ身はたゝ〳〵をもわもゝ〳〵者ハうぎりはてゝ〳〵

まゝうぐ

同

みやこいづる今ぞ初ぢうぐふてつゝふと意えて人をまうれ

まゝうぐ

同十五

月ゑ新ハらゝをゝしむとゝろ　花ゑ新ハゝのたかゝ

まゝうぐ

同十六

ゆうきはうゝゝはゝ思てきこゝをきこゝ花を入おとおりて

まゝうぐ

後十三

たのそぬゑ君くやゝまゝゝひのまはふをゆゝてゝぐはきゝ

まゝうぐ

同

きのめゝしゝ云ち者ぢうゝめ玉て後普ゞあゝときえ

まゝうぐ

右の橋後拾者と来に捨ゑおゝゝゝ人も一ぎゝおゝかゝと

後拾十五

山のゝ月ゝかゝら

まゝうぐ

池ゝうゝゝ月をかゝゝきゝゝ

こまハゝまゝうぐよかゝまゝゝいふきゝゝをのよかゝまゝゝいふきゝ

を例の橋くゝ見てとゝゝゝゝゝ

右の歌ぞとは思ふくゝ下にまゝ沢ふく見ていひまつる例ぞ。他ふと

わ且ぐゝまゝうぐハ捨ふ多くゝ者て一橋のれゝ。まゝうぐのかふ

ゝゝの者歌ゝゝびつゝとゝゝ月毎の七日ゝゝ世ぐ日十九ゝてゝをおゝ

世ぐゝぐきゝの世ゝ今ぐいゝゝのゝゝゝひゝゝ子載十三ぐゝさゝそ孫ざ

えの存ゝゝこしぎゝちきゝゝゝゝゝうてゝゝゝ世ぐゝゝゝゝ世ゝひまて

てゝまを者ゝゝゝを見ゝゝ夢聚ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

姫ゝたゝゝくをまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○まゝせぐ　こまハまゝゝせぐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

後十一　[illegible]ませだ　絲ざくらふまをかしくはざくらま□

同十九　さくばよくべつきくいたくいませだ　ゆくとゆるりあるくきなま□

拾八百二　花ちる川　きぐくみるとうせのませだ　流るるあとのうみかくま□

新八　ひとりまこ人くふのいのちをきくませだ　ちるあとの芦にな舞らざくま□

後拾十二　枝くもるる門ちくくませだ　ちひてまくもの□まくいくぐるるべき

下にまくくいたまざるハ

[illegible]　かくだりとくんくかのてまくませだ　妹をだ見まぞはくべくりるる

ひとち拾きくまくナにうもとうくくて入らもくりさて菊菜ちもとませだくく

いつくハおあとさ紙ぴもあのかハくるとかくまくくつり

○ぬふのうとの絲だ

たぴ　天の川　流れ流れるくくくくりつくわくうくて　絲だ　あをそちふりく

野二　草　うえむくくれ桜ふをいまくさくりくくる絲だ　小松ぐふりくり　味ぐ　ぐ

ひとちの菊ちて八月のちにてくりくくふくしのさくくくれたくるハ春の紙ち入らもくれハ初ちまは

だとくくくさくくくく

後拾一 後撰ニ
ほのうらゝ月をかけてえん法をば夜のうへ[と]たきゝ[illegible]法
兼輔ニ 未
ゆきちなきゝゝのゝちやをれたゝぐ[illegible]きをば山べのせぬ[と]ゝゝゝゝ
金八
ぬさ人とゝる[と]ゝゝゝゝ[illegible]ちよ中に人乃ゝゝゝゝ

古十三　ものがたり　と　ものがたり　と　たてまつ　難波ちるみ川と　と　いふまつのはきと　と　いそ

後十五　こまやこのゆく　と　うら　と　あきつ　ちる　と　ちるね　と　おなじ乃せき

おつまちわび、

後拾四　秋　と　秋こよひ　と　あらひ月　と　月　そらう　と　そらうえら　と　きうき

おつる

六帖　をそ〜し　と　こぞ　と　あら〜し　と　をそ〜し　と　明日　と　りふ　と　おもふ　と

□

○んのきこと

千四　くとがれんせ　と　きうせ　と　袋ゞ　ながく　ゆめ　むこ　乃　袋ノ

千五百番　ゆ〜つ〜ち　萩の下葉　ゆ　きく　虫の　こゑ　を　ばしれ　れんせ　と　きうせ　と

はうもんの和歌多くゞ多に　ゆめ〜に　ゆ　そ　ふ　れ　せん　きうせん　と　ふ　と

秋〜に　ゆ　百番　ゆ　ふ　百番　ゆ　つ　ゆ　ひ　ね　を　み　う　に　ゆ　ゆ　れ　せ　と　き　う　と

心あ　ゆ　の　風　れ　ハ　上　の　和歌武　多　多　れ　せ　き　う　せ　も　せ　ん　と　ふ　と　う　れ　ん

誤りて。れ　せ　と　き　う　せ　も　ち　る　心　あ　ゆ　の　風　と　ゆ　ふ　と　み　ち　れ　ゆ　う。ゆ　て　こ　ん。

後　る　と　ゆ　と　に　偽　う　ち　る　ち　る　ち　あ　ち　り

□

んを　と　と　い　て　倒　ち　ち　夢　聚　り　お　り　。せ　の　ま　た　ち　風　の　ゆ　ふ　ち　せ　る　。

そ　ち　萩　ち　万　葉　ち　ふ　べ　と　て　ち　不　都　子　牟　と　ち　き　。て　と　を　庇　と　う　き

又　詰　物　記　よ　ハ　と　い　ふ　べ　き　ち　ち　ふ　ん　と　ち　る　り　ち　。こ　ち　ち　も　お　ち　ち　ふ　倒　ン　。

□

○推く　ゆ　る　ち　ン

□

古十五　あ　し　べ　ち　り　ち　を　ち　そ　て　ち　ち　ち　い　や　ち　を　ち　ち　る　ち　ち　ち　身　ち　る　し　と

同　ち　ち　ち　ぶ　せ　こ　ち　ち　く　べ　き　よ　ひ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　と

拾三　万八　秋　ち　ち　て　い　く　ち　と　ち　ち　ち　ね　と　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　と

同　十三　わ　ち　ち　せ　こ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　と

部ゝなくやさ月はれみどりの衣をぬぎすてゝ[を]

二十 神代まもはちはぬ浦ゝ[を]みるてをなんまの限まもとゝ[を]

後二年 まくらもとばおがくもおやきゝ月夜ゝ[を]つるゝ[を]花陰ゝ[を]

けゝ[を]をを今のやにゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]

いつぞゝ西ゝき茅茶の訓ゝ[を]

たのみゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]

業平はふくもぐいつゝ。七の巻古風の新ふ出せり。そてたの新

のゝ[を]ハ。雅く流ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]

さへゝ[を]だゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]

けきぐひのゝ[を]茅茶ハ雅矣ゝ古風。新ゝ出せり

ゝ[を]ゝ[を]三の巻ゝ[を]新ふ出せり ぐゝ[を]ゝ[を]りぞゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]

ゝ[を]ゝ[を]その新ふ出せり やゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]

ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]

○ゝてゝ[を] 後ゝ連のまをかくし

新拾十 ゝてゝ[を]かくかりはゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]

新後拾十六 かぐぐよ久茅はいを掲ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]

こゝハいやゝき何ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]

んまべゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]

ぞ

○ゝ[を]その法ひゝ。組後の中ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]ゝ[を]

○玉のを三

○十二

[illegible]

○その結び詞をおきなげ〜枝下へはぐきまこと

後十一 ひひえてはなぐさむやと[ぞ]をびしふるごろしきこそ色〜かさね

播州石見 そりはげ〜こうしみての〜[ぞ]をびしどこひるみあのの松系

後拾遺 おなじく[ぞ]をつりんと思へども君ふるはしはまづぞそそる

たの[illegible]しといひらんといつはぞの結びをとどめし。枝下へはぐ

きこゝろかふいづともはゆよりしび。此歌の接ぎんまべきし。後成[illegible]

をしめバ君まぞとまるらかりひいとでやりをとまし。ぱ[illegible]ハ結よ[illegible]

ぞうのひぐ〜。ちふこれハをぞよ写し。温ふる物するべし。

○その結び詞を結びて下へつぐ〜書

玉葉二 小式部 [ぞ]をみえつとどはふ〜ふをりて八俳〜ふなりりふ

月十八 結ぶて [ぞ]新〜ふれどと

ふ[illegible]女 [ぞ]ゆ[illegible]ばくとうん[illegible]をふうをまんん

ないづともふし結ぶべき和をまし〜〜〜かして下へはぐきこゝろ。此

枝もきよかりびんまべし。よみる者ふ[illegible]ハ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]

二三の句ゆよかりびし雖ぜ〜まこりき。

○ぞ〜かて[illegible]ふ〜結びてふ[illegible]附て〜結ぶ

芸苑 [ぞ]老ふきを〜かの

[illegible]ぞハ曽の字を書まれぞ字一場りをとしひぐ〜ちかふ〜ふ〜ハ

[illegible]

陸奥 さ〜〜花おりの山ひまりふちるてふをを[ぞ]風ふかせてこうる

玉十一　えてしを　ぞ　まくらうつの思ひうれそをとこだうりはうこ海の美

たいづとしてふをとそのそ　風雅十九うもれきこはうまるとは拾ふ

こ字一　偽ふるこ一本ふ　ちぎりうつ　ぞ　かれひる。これハとこぞ

をしふりふ文ハふるぞ　ぞ　ぞ　

こまゝゝも同じ様なれども上へ後ぎをする

○いひうをそてはぶぞ

千又　書ゝしばまぐれよのゝハつりゝゝじゝ見ひらゝゝふぞ　三ゝ美はな

四十七　なかぎりたゝるたりとハかゝゝねどゝひぎりぞ　そゝ陰乃そで

五十六　うつうつぞてちゝかゝの秋まれど今ハよをよぞ　きくの上の高

五十六　とかゝきばゝゝをのゝぞ　つゝ掃ゝてきべきはどゝゝねバ

五十九　身てやゝきせざゝべきはのふけいまぞ　いくゝとの松ゝいひゝそ

六　ちゝうゝていまぞ　ちゝぎふかゝゝゝ山ゝきゝゝゝゝのふてそゝ

六十七　ゝ者ゝゝとゝひゝをのゝぞ　三の古ゝ美ゝ未ゝ春ふ秋ゝゝしゝ

同　三　かゝゝとゝやたりふゝをゝゝのゝハえぞ　やまゝゝゝの井ゝの高ゝみ

○ぞ二つある事

六十三　ちひゝくてまれふこゝろひぞ　あふ坂のゆふつをもハなゝどゝゝゝん

ことハゝふゝいひゝゝる相なよて切ぞ。のゝつきゝゆふつをもそも切ぞ。

狂歌ゝつきそゝトの俗のゝゝきゝゝハ餘の様ゝ異し。やの秋のいひゝとの話

びゝゝ此様ゝゝ考へゝゝべゝ。

計高ハやまゝとゝふことのいひをもれぞえゝとゝゝきべきぞ。といひてことを

ゝくせゝしひゝをゝとゝでかゝてゝとゝかゝゝ

○ぞ二つある事

九　小へゆゝゝ石ぞ　ちゝくなゝ　ゝ法ゝそこゝ敷ハたゝぞ　ゝうてゝぞゝゝ

一　面ゝいゝぞゝゝゝあてぞ　ふゝ　ゝふぞんの見ゝゝ山ぞ　うゝろひぬゝん

金九　なゝて名よぞ　人のつゝさハまゝゝ　ゝゝゝゝ　ふハゝをぞ　ぬゝ

玉葉ゝ秋ぞゝゝる月ゝゝゝゝゝハせるゝよゝへゝ新とゝゝゝゝぞゝゝる。これを

古の方ゝゝ同じ様なれどもこゝるゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

七　おもかげゝにゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

はゝ上のぞハ[illegible]きしいとゝて[illegible]びしり下のぞハ切しぞ[illegible]
とゝとゝ文て[illegible]ぎ[illegible]

[illegible] 秋[illegible]ゝ[illegible]なびく[illegible]をゆまくまたゞ袖ぞ。[illegible]ぞ[illegible]
ことハ上のぞハ向[illegible]ぞ。切て[illegible]ぞ。[illegible]ぞ。[illegible]ぞ。文て[illegible]ぎ。下ぞハ[illegible]
しもづり

○切しぐぞ　[illegible]ぞ[illegible]

古十一　いでゝ[illegible]れを人[illegible]とゞ[illegible]ぞ

同十二　[illegible]ぞ

後九　[illegible]ぞ

同十　[illegible]ぞ

後九　[illegible]ぞ
[illegible]ぞ
[illegible]ぞ

古十　[illegible]ぞ

同十一　[illegible]ぞ

後九　[illegible]ぞ

千十三　[illegible]ぞ

拾二　[illegible]ぞ
文ぞ[illegible]ぞ[illegible]文て下へ[illegible]

古十六　人[illegible]ぞ。[illegible]

後三　[illegible]ぞ。[illegible]

同九　[illegible]ぞ。[illegible]

又

○[illegible]三

右十二　ロゲだ〜〜りのやうにたれはらぎれらきぞ　ともなくようでゆらん

日十三　秋の歌とんのをりりをとりなりをいへぞ　ともなく時ある袖を

（ちょっとのぞいたらろろ秋をどうとかてとと夫て
下へつきそそそそそへ上りりはど又）

歌十四　なぐむもばは月うるぬゆるぬあるれとゆ公法かどとかぎうりぞかし

歌十七　いうふせんちびがををおおくの行うれこりるとよの中ぞかし

日十六　りみぢぢ代おのゆ除るいりぞかし　よをぎふあるりをを表うる

千十七　たもみる高ゆ月ぞかし　ふるもひるりし書ゆいやう形

（ことしはぢぢぞの下へかしをほしてべてかしは
ぢぢしをの下へおく雑しあくかのもかしの恋ふいり）

○題ひて四うるるぞ　こはふ上ふ伝をの歌をおきてぞとゆし

枝十二　ぢぢにふゆをぐぐとうしはきまてこひの杜ハいうふぞ

歌一　をぬりいふぞ　梅やありあんとがまりり枝をいろとかをしぢ

枝十二　美ふそもありふをりまぢぢ秋やつせしをふぞ　ところふわをとぢられを

（しはてふはいふをの下に他のをとへぞぞしてぢけてぞぢいそう
又をを中にあぢぞしるを）

歌六　をみをべしまもりぢふむをとうをたをまつ中の歌ふまよふよぞ

日十六　ひくぬをふをれををもをりふれしをまをぢふをろぞ

枝八　みをれやうをうれ枝ををおぢふ義へしを人をうていくよぞ

日十　ろうるれをぬきのるりぢををへしをたぢ子ぞ

歌六　いうぢしのまてくをんみるかをハいうをかうふしを言のあしぞ

（源氏　いうをぬうりもうしを法づる舞ををて代をふかく法中のへぞぞ

歌七　きるをきをしをくをぢぢぞををぢ表ををぢぞをてて

拾十七　いろだかうてすしたりの□ぞ□かづしきの久米川の橋の中は絶ろそ

同十八　□くよへつ　いそべのまつ□ぞ□むしろを立る波や数〻ちてしん

又

金八　あさましやこはちふぶきの□ぞ□ちよ□志せよとてもなりれぞうつはそ

拾門　ちりさかりわけ花のさとうとおもひゆしふちふぞそ□ぞ□さき秋の夜□ぞ□とよ

とよ□くとよとうつ□とよとうつ□辞をそへてうり程とよの徒うそ□の毛よの□の絶よ出ずう。

長拾七　長拾七とかまうしくくふいうふぞまふさしがふぞこへ。ぬこ□ぬこ□ぬこ

○ぞそ　□　ことも上の四うそうぞそそ□を海うそ□そふへきあ

六帖　ちうしへ乃ちうとかうしたたきを日雅はをうつしたたぞあふ□ぞそ

源氏作門　ちうそれてふはをなしぬよの一ちをいうるうしかうるりの□ぞそ

六帖　□たまふよりも思ひみぞうこうろ□ぞそ□ちうぬぞ人乃つうきりう

又

拾八　かうる山ちふふ□ぞそ□有てうるうへきそとうぬのふてそみれ

同十二　いのちやそちふふ□ぞそ□を六帖　家のわぞあとうふふうへぞきしかうるよ

同十九　まそたなまどぐちふふ□ぞそ□よきうかうやのみぞとてうまであうぞまを

菱門　かうはよふちふふ□ぞそ□雪はかうのきうり言のまううぞしくちん

○ぞそ　□　しまをとうるぞふを□を海うし

拾一　名ようをもてそのそれくおりわゆをしるぞ社ふまうう実の梅□ぞそ

同十四　ぬしちうぬうをちわへまを秋の社ふふぬぐぬぎうゆ□菊ぞうふ□ぞそ

長拾八　いうそびつ紅ちうそきつをと山里うしうゆ□よるをちめる秋の月□ぞそ

新十六　むうされ乃雪ふもうぞを長うるぞく山おうひへうふ□ぞそ

播磨 かやつ火をまぢかくたてゝ心ぢかのおのゝ慢をしぬぶ事ふ□ぞも

○ぞや □□とも同うるぞふやをゝ□□やハ鈴ふりぢ歌あのやし

拾七 いとをせゝ海士よりあへゝいづゝ□ぞや□□なめぢそそをしりそ

新勅十三 小侍従 いうゝゝそきぞや□□いまふえゝてハをとをへふてをうをふをを

けるぢいうふぞや□ふぞやをふぞや□をゝをぢゝ文うをゝいづともやハゝをぢひう

やよ仏をれたをふいうを歌あのやをう

俤氏 あぢをも いゝ□ぞや□も花のちをふ一をえゝ春をへや鈴をぢゝき

こをも同じぞや□そ今をの後をにゝふ□ぞやをゝ□ひぢをう

○ををやハ□の□何の訪ゝ□をを

○一つのそ□ こをハ□そよあり但ゝ実ハ□をべきゝ□をぞうをゝ□ぢ

拾十六 みをゝ□□いくゝ□そ□のよゝに春をへをゝゝふのをゝをきを□てをつん

拾古 わをゝ□ゝや春□下□のいをゝをゝ□□そ□の人乃鈴ををつゝん

同十五 かぎりあき思ひのをゝゝみちぬをバいく□そ□のゝぢうをゝをゝん

拾古集 えをたをふををれゆをゝを思ふまぢいく□そ□ゝおゝゝ春の上れ春

同 ゝゝゝゝ字法の川 鈴ゝ弁つゝいく□そ□月日をかぞへきゝゝん

兼盛集 あゝたぢのむをゆゝ春れまゝひをいく□そ□ゝをゝのゝ春をゝん

新古 うゝ人乃月ハあふ□そ□のゆゝゝ春ぢゝ思ひをぢゝをゝちなぢめつ

けあをゝハ同ゝゝそのふくゝゝをゝ生をえをゝ。のゝ夫て。下に同ゝゝぞハ同ゝゝ。

をふゝゝゝぢいくゝそのゝふ同ゝぢくをゝ

上伴 いゝ□そのゝハ十をゝゝと思ゝゝ□ゝ古今春をふいくゝぞぢく古

ゝゝ文のゝゝをゝゝをゝをゝをゝをゝ春をゝえ春ハ。十にをゝゝで添ゝゝ辞をゝ

おぢゝきをふ。ゝふ思せゝゝゝ。ゝゝ春ぢゝふそもゝ

くゝて。十をハゝ ゝぞゝゝべゝ。ゝゝ。ゝゝ春十のをゝをゝゝバ新古今のゝふその

[illegible]

○りぞ　こしとハめ事をうゝてかしこかりて。ひやぶしことはてゝ[illegible]ぞと

一つまゞしくまこうのるし。[illegible]

長十六　[illegible]ねてゝ思ひもをてゞ[illegible]ゝあやきこゝみりぞ[illegible]

金一　[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]りぞ[illegible]

河三　秋山乃[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]りぞ[illegible]

多十二　[illegible]りぞ[illegible]

長六　天の川[illegible]りぞ[illegible]

又[illegible]

正応二年ノ年紀[illegible]

[illegible]

[illegible]

長和 十一 うれしうもとりあつめべうもあらぬ [さうぞ] いとど歎きのそやこちらもそらも

後拾三 侍れ和泉 ちらくぶちりのそらばらひしりうど見るそ [さうぞ] まちて見るまき

詞 右 あの戸をあしのかげくれ月見えばうき人 [さうぞ] 見しかりける

什方のこハ都てのことをふくまぶさる

○ [さうぞ]

長和 十 ちひやあれのうくれなるふくのうくそびて草のうくるハ [さうぞ] あれきん

詞 弁ちび乃表はあうちた宮とかきうとめ秋もし [さうぞ] とやうらん

後撰十三 ちきかう ちとちられぬ[illegible]たえぬべきかつるひちつのをハ [さうぞ] つりうらん

後拾五 ふく風と [さうぞ] きかとし

同 秋をちうはやのさくきの秋風うそよ [さうぞ] 藤もまあきこうらん

長和 十 生づひいうきをうとかくうしうをまうをを [さうぞ] とまうる人のをきを

玉葉十八 上りやくいつうのうたをうしをかくうしうをいそぐかくしぐく月をかハきしまうとうとを

詞 又下に為を添へうとれうし

千右 和泉式 ちとともみる [さうぞ] をむりはれ舞ぞとあり上箱うしたくきまうしき式

詞 正 係うしぬ和山のいわれ藤花ぞふ [さうぞ] をこのまの月ハちびき

同 十 袖うしぬひ [さうぞ] を藤の美もんでとをうとうあをうしう風

又やを添へうハ見ぐし

後拾十三 八重葉 藤をこもまりとうしうびてはしたのうそこぬハ [さうぞ] やつうきと

又右乃方たれぐしうおしとうたうこうハあうでうで [さうぞ]

いつうこうそ [illegible] がうへめうしうつうしうう波いつうとあり。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

金一　ちりかゝりぬきて花を枝の□のぬきぬ□ちりかゝる□

こまゝ八ぬへくまゝとれぬと枝下へ流れきて□ちるまゝ西まり

又

月三　今よりハちくろゆるまで月紅□のゆくへもまてびくさそひきて□

彩三　むさぶるまに紅みぐるゆく山の井はわぐも月の□かゝるまきふかと

こまゝ□と定まりわゝ格のでゝ□ゝ□ゝ後ひてハ中ゝ□ゝ□ゝ格をまぶと

てくるまゝ紅ぐり

チ六　おつるまんをうぐるけりくぼうてちゝそ□ぐゝえふかと□のなくまと

こまゝ八ゝ□ゝ紅びてもゆゝ□ゝねた又ゝ□ゝ□ゝ□ゝ□ゝ□ゝ□ゝ□ゝ

「所ぞゝくゝゝまゝこれゝおゝまり

件の高さいづゝを定まめる格ゝ八ゝづゝ□ゝ。そや何をぐゝるハかゝ

ゝ□□□

ゝ□□

ゝ□□

ゝ

万三
いそぎ〜の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]ゆふ[illegible]つ[illegible]ひもろ[illegible]
山ゐ立つきゐ[illegible]ゐ[illegible]に[illegible]の[illegible]の[illegible]を[illegible]ゐかと[illegible]と[illegible]て上四つの[illegible]
云つゝ

新古
[illegible]ぐ[illegible]の[illegible]り[illegible]の[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]の[illegible]を[illegible]
こゝは四つと二つと云ふ
又

月二
[illegible]かゆふ[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]ゆふかを[illegible]ま[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
これも三つづゝ二つし仰ゝ[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

○のとゐとゐ[illegible]

古十又
吹まよふ[illegible]を[illegible]を[illegible]ぎ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]の[illegible]

拾古集
野ゝびせゝ弱の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

源氏
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]の[illegible]

源氏
夕顔
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]の[illegible]

○周の海より[illegible]の[illegible]

古
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]の[illegible]

後古
[illegible]ばたりひぞ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]の[illegible]

新十三
わ[illegible]の[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]

月
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]の[illegible]

月十六
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]の[illegible]

後撰十八
俊蔭の女
万十二
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]の[illegible]

又玉葉十四そんし[illegible]
月十二[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

月十三 月のうきふねひわまりの□たそくハ秋さへゆくきりのゆぞありりふ
風雅二 さびしさハ花よりつゝのゆゞめしてゆくにそくさんのそ
月十二 ゆぐりうゝ海きちぐりをきく中に人うもこそぞのきうしまゝ
こゝろハちひてこゝろとゝもてこんをせるゆこそ月ゆき秋ゆゞゝもいゝゝいや
しゝゆゞゝきらひぞゆし

○さゝ結ぶの□

古四 秋をぎ城ゝゝみふせそてゝ花のうゆハこんしまてゝる□のさやきさ□

月丈 ゆ結ゝる巻のあきゆ□をゆ花ゆのゝゝひつきをぬよの中□のゝさ□

後古 あふゆゆうり社ゝてのゝゆゆゝる月ゆ色を人色ふかゝゝゝ□のゝさ□

月仕 夕ゝれゆ初ゝり少く結ゝ結ゝ色ゝゝゝて夢ゆひをゝ結ゝ□のかゝゝさ□

仕 秋なかいしゝかゝり仕祭りのさを字一得ゝてきゝゝる本のゝゝふゝゝて後
世のへゝをきゝをきゝゝゝ

廣七　まのゝ人ふうぶつ私め　ゑをゝ　をゝ　ゝ　ゝ　

○のゐくらふさの□

古十一　ふしぬ川いさ辰ゐゆくふの□まくぎ人をゐ八ふをめて

月　夕月夜ま上や岳べのねの乃ま□のいつふしとゐぬ辰もまふゐ邨

このまぢひ明ゐのぢくゐ阿の宮のぢくゐとゐまと出雲ねふゐ八くたゐ

□言をへぢそくゐとへかくゐの□

古二　文ゐ歌□ふまふゐとまれば郡ふ邨一ふゐ一ゐ伝ふまつくゐ

後十一　あを辰しゐゆきそやえまくゐは宮□の今をいりてふ浦のふつ邨

後拾五　宇治川□の□ふやく□ゐのしふゐなりふ辰伝ふまりてふゐまばふくゐん

○いまふゐひあふの□

新四　もふくひふ□ふまふ辰八歌のふまぢくゐやぢふゐ月□の神のせぢまひ

後拾二
後赤極ゐ　ふふこぢは辰をゐや神のいまふまんふへくゐ人□の辰れまふりを

こまくゐ神のせぢれ月のやぢふゐ風のまふりを人のふへくゐといふゐを二宮ふ

ふちへくゐていつまふりゐ神ふのりじにいきゐひあり又新古今又きりくゐ秋

ふむは秋のあふまれにふゐふ歌のふれぢふりゆく。ふまもまふくべき同じくれぢ

新のふれぢふりゆくゐ垂ふづきそ上へふくぢふれふれの二ふまとハふまふり

○一つ社の□

千十一　たふくゐ社垂ふまふる人ふりまくゐまふそふまのはふ□の辰や君おふりふん

こまとハふまのつ□の垂ふやといふまふ山の□を文ふハつ□ふおれくゐを言ふハこれ

ふの和ハまふくゐふまふ山ぢ

妙法寺　人書ふくゐぢ□の□ふ歌ふれふ神ふ二のふれ月ふまれり

こまも辰ぢ書ふくゐふまふそふ辰の社ふのふ山ぢ□ふまふを辰ふ山ぢ

辰ふふふ山ふ辰ハ神ふいふ垂ふまふをいひぢ辰のまふ

○一つ社の□

新十八　君ぢ代ふ一ふ伝ふまぢ辰ふ社の神□の□ぎくふまふ八ふ一まれぢ君

同十九　いまぐ川　[illegible]やまぐ[illegible]ふ秋　の　[illegible]

○猫の

古十七　[illegible]

同二　なく[illegible]

[illegible]

○のや　[illegible]

古二十　[illegible]　のや　[illegible]

[illegible]十九小大[illegible]　[illegible]　のや　[illegible]

六位　河内　のや　[illegible]

[illegible]

[illegible]十七　みな[illegible]　のや　[illegible]

[illegible]

○[illegible]ひの辞　[illegible]

古一　[illegible]

同十七　[illegible]

日二　雪とのゝ梅ゝどふわゝ沢さゝ　ゝ　ゝ　

同十九　[illegible]

万二　[illegible]

同　ちくなるこれもがさで[illegible]

右の哥は[illegible]

又むさびよりづりぬがら

九十六　ぬる[illegible]

後九　秋の田[illegible]

同九　[illegible]

九　[illegible]

拾九　[illegible]

○さと[illegible]

九十三　[illegible]

後三　風をよ[illegible]

同十六　なるもき[illegible]

万四　[illegible]

[illegible]

[illegible]

○つ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○玉[illegible]